常磐毎日新聞
日刊
五月二十六日夕刊

叫ぶよマイク!! 良港實現の歡喜
熱狂と興奮の坩堝
小名濱灣頭祝賀の一色

昨日の小名濱町は歡喜と興奮の坩堝と化した、半世紀近い前からの『商港待望』の念願が幾多の波瀾を重ねてけふ實現したのだ、初夏の青空に五彩と散る煙花、港内を埋める滿艦色の各漁船、紅白の幕と國旗と祝燈に裝はれた町家、そしてその間を練り歩く小學生の旗行列、赭顔の若い衆連が曳き廻す屋臺、もの皆喜悅に踊つて居る、午前十時——商港埠頭大アーチに飾られた萬國旗に埋るテント張の式場には内務大臣代理安藤土木局長、三島仙臺土木出張所長、君島知事を始め朝野の名士約九百が壽司詰の盛況、けふを晴れの小野町長の磐炭淺野翁の着目にヒントを併て此の良港の實現を見たが更らに進んで港都の偉容を完備する爲め第二期の擴張計劃に猛進し將來日本の商港として恥じぬ大小名濱港を建設せねばならぬと叫ぶ力強い聲がマイクロホンを通して場外にまで犇めく人々の耳朶に響く、傍らの岸壁には中央氣象臺の凌風丸（一千二百トン）が喜びに船旗をハタめかし、町の青年團は新裝良港を沖から眺めよ！と觀覽者を滿載した發動機船を運轉して太平洋の海波を蹴る午後十二時半新築魚市場で大祝賀會が開催、美妓總出の接待賑やかに餘興の漫才曲藝、詩吟等が始る、一方埋立地のグラウンドには野球や相撲、弓道等『健軀、小名濱』の誇りを示し遠近各地から押し寄せた群集の顏にも祝賀氣分が濃厚に溢れて同町空前の盛賑は果てなかつた

安藤局長に 六號線の運動
平市長外町村長が案内

濱街道開發上要望されて居る平市を中心とする勿來—久ノ濱間國道六號線の改修は各關係市町村で期成同盟會を結成再三主務省に猛運動を繼續してゐたが安藤土木局長が二十五日小名濱商港竣功式に臨席の爲め來郡したのを機會に二十六日青沼平市長以下各關係町村長が同局長を自動車で案內促進の陳情をした

夜の繁華街 巣食ふ不良狩

平署では初夏の來訪と共に夜の平の明朗化を圖る爲め繁華街に跳梁する不良狩を斷行することゝなつたが更に私娼街の取締にも着手する筈

詩吟講習 青年團主催

平市聯合青年團では大日本國吟會長鶴田旭窓氏を招き本廿六日夜七時からマルトモホールに詩吟講習會を催すと

海軍記念日 平商の催し

平商は明二十七日の海軍記念日に際し午前八時から相馬郡大野村海軍大尉高橋吉太郎氏の講演會を催すが同氏は日露戰役に旅順港閉塞隊に加はり廣瀨中佐と共に奮闘した人尚終了後全校生の神谷村立鉾神社往復マラソンを決行する筈

四倉漁港 補助割當

過般決定された四倉漁港修築補助費七万圓は左の如く交付される旨この程發表された

△十三年度　一萬円
△十四年度　二萬円
△十五年度　二萬圓
△十六年度　二萬圓

羽岡醫逝去

下小川村上平醫師羽岡平三郎氏は尿毒症に冒され治療中の處廿五日午後五時四十分遂に逝去、告別式は廿七日午後一時自宅に於て佛式に依り營む由

清風幼稚園 呉服類即賣

平市南町清風幼稚園では資金造成の方法として來月四日午前九時から午後四時まで本場西陣帶地に東京浴衣地の陣列即賣會を開くと

°°°°°°
金透校が四倉濱へ　郡山市金透小學校五年年生三百名は今二十六日山田首席訓導引率の下に來郡四倉海岸で一日の清遊を試みた

社告

印刷工場内は本日散亂した活字類の徹收が漸く終り活字函架の柱立に着手しました、今後數百萬本の活字類を元通り函に納ますのは仲々大仕事ですが復舊作業着々進行、本紙のバイ版復活は平三四日中に實現します其間御覽の不休裁をに御容謝願上げます

五月廿六日
常磐毎日新聞社
社長 川崎文治

°°°°°°
姙婦傷害の言渡　既報ポンプ小屋の移轉問題から端を發した例の姙婦流産事件——小川村消防手草野定行(三五)に係る傷害事件の公判は二十五日午前十時から平區に開廷大脇檢事懲役六ケ月求刑後市井辯護士の無罪論あつたが淺野判事から懲役六ケ月執行猶豫三年間の判決が言渡された

°°°°°°
遺家族慰安映畫　勿來小學校並に同町國防婦人會は海軍記念日の二十七日午後六時から同村小學校講堂に出征軍人遺家族慰安映畫會を催す

ラヂオ JOHK

今晩の部

▼後六、〇〇 獨唱とピアノ「四つ葉のクローバ」外ホワイト合唱團
▼後七、四〇 講演「円の大陸進出」荒木光郎太
▼後八、〇〇 講談「中江藤樹と母」一齡齊貞丈
▼後八、三〇 新日本音樂「かきつばた」怜明會
▼八、五〇 連續ラヂオドラマ「東郷元帥」新國劇
▼後九、三〇 時報 ニユース 明日の話題 氣象通報 番組豫告

明日の部

▼後〇、〇〇 琵琶「士の義本壞」高野旭風外
▼後六、〇〇 (子供の時間)ラヂオヴアラエテイ「海軍記念日」アタゴ子供會
▼後六、二五 (上海より)「支那事變當初を回顧する座談會」
海軍の夕
▼後七、四〇 講演(日比谷公會堂より)安保清種
▼後八、〇〇 吹奏樂「聯合艦隊」外横須賀海兵團軍樂隊
▼後八、二〇 連續ラヂオドラマ(記念艦三笠より)「東郷元帥」新國劇
▼後九、〇〇 時報解說「チエコ問題とヨーロツパ」法博芦田均

白柄劍風連

大島多慶夫作
井川洗厓畫
（商）布施長春
（圖）村岡壽映

……四四七……
箱根山中（三）

「[illegible]、俺も往事で御身と[illegible]して[illegible]り合はうとは思はなかつた。」

五左衛門は陽に焼けて黑い、そして、額から顎にかけて刺のやうに鬚の生えてゐる顏は、喜悅と感激の涙で彩られたのであつた。源太の眼にも、お御の眼にも嬉し涙がキラ／＼と浮いた。路傍に立つてゐる木當圖帶と土岐齋之助の顏にも感激に打たれた同感の色が閃いてゐる。

「大寧寺氏、御身は旅へ赴かれる様子だが……一體何處へ行かれるのぢや、江戸を見捨て……？」

「うむ、入寮りぢや」

「何？」

「飛燕燕來とも云ふかな、御身の[illegible]けて來た紀州へぢや」

「おゝ紀州へ……？」

と、五左衛門は思はず叫んだ。源太は踊つてゐる二人の方を指して、

「後路にゐる二人と一緒にな、御身も存して居る人々ぢや」

と、ニヤリと意味深く云つた。先づ木當圖帶が静かに立上つて待つて來た。

「松平氏、まさかお忘れではござるまい、圖帶に入つて居つた木當圖帶ぢや」

「おゝ、思ひ出した。稀老人の片腕と稱された木當氏であつたか」

「後路に居るのは土岐氏」

「ほう、珍らしいな」

と、五左衛門は眼を光らせ乍ら齋之助の方を眺めた。齋之助も静かに立つて來たが、まるきつり以前の面影のなくなつてゐる五左衛門の窶れた痩くなつた姿を見て、どんなに苦勞して來たかゞ瞬間せられたのであつた。

「松平氏、定めし[illegible]たらう」

と、齋之助は[illegible]うな面持で云つた。

「御身も紀州へ行かれるさうなのう、如何なる御役目で赴かれるか知らんが……大寧寺氏と御一緒のところを見ると、何事か御隠密の息が掛かつて居るやうにも察しられる、よつほど御用心をなさらんとな」

「もとより乾坤一擲の大仕事のやうにも思つて居ります」

「ほう」

と、五左衛門は羨ましさうに[illegible]を瞠つた。源太は暫く五左衛門の顏を眺めてゐたが、

「仕事は大きい、仕遂れば我々の[illegible]は高いが、併し、それが露る瞬間ぢや」

五左衛門は興味を感じて來た。

「一體何ういふ仕事ぢや」

源太は四方に眼を配つてから、徐ろに紀州行の目的を語つた。默々として聞いてゐた五左衛門は愉快さうに源太の顏を見守つた。

「大寧寺氏、その仕事は成就するかも知れない」

と、斯然と云つた。圖帶と齋之助の眼はギラ／＼と異樣に光つた。

「うむ、成就いたすかな」

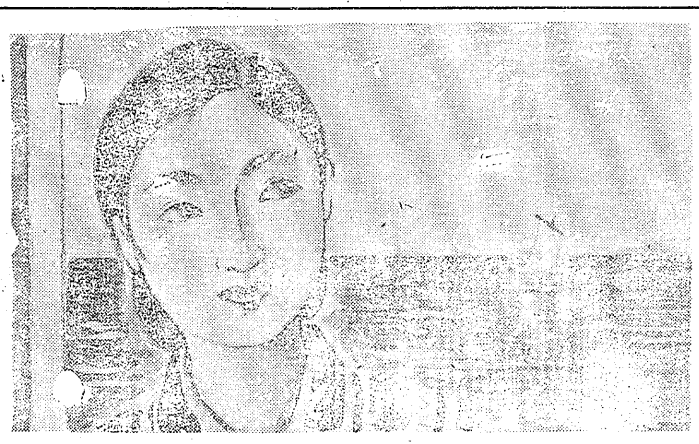
五左衛門は紀州路の現狀をつぶさに語つた。そして、大納言賴宣の氣持は、まるで噴火山上にあるやうな危險なものであると附加したのであつた。

と、源太は圖帶と齋之助と互に顏を見合はせてニヤリと會心の笑をもらした。

大納言様のお心は[illegible]いて居る。また目算もして居られる。

不滅のシンボル

大井広介



（上段より続く）

…第二十三回…

感　想（1）

彼女と別れてから、彼二の手を強く握めて。彼二は又握り返した。

「あらまあ。此方でもうついやましたか……」

彼女が驚きの為に少し身体を離したところへ、女中がにやにや笑ひながら入つて来て、お茶や菓子などを二人の前に出した。

「彼方はあんまり屋が儲るもんだからねえ……」

と、彼二は言ひ訳らしく言つて、

「今日は病人が吹くんだね」

「今日は病人なんてございますよ、病人はこんなではございませんでしたわ」

「それにまた、病人とはまるで話が違うから、自分の意思の伝達もよくいふ事にも行かないな。……どうも医者に引き摺られてしまうんだから」

「えゝ。でも、そんな生活が出来たら、どんなに楽でせうね。自分の思ふ通りに生きて行くやうに……」

「そりや、さうに違ひないですねだが、それが彼女等々々な事に基因に帰してしまふ事があるんだから、なか〳〵どれで六ヅかしいものさね。……自殺でもまあ病んだ病気さや、あの生理学のやうな人たちは、全に意思の一致ですね。あの人たちの病理学的の眼式を、文学に意思でも女中が部屋へ来ると、二人はおしくもない茶菓を食べ、ながら、らく女優や歌舞の噂などをした。彼は不思議と感激を失した。彼は不思議と感激だつた。

「感覚でも感じに感謝にはかり起らないで、自分の強い意思の上に立つて、ドシ〳〵やればんだつて云ふ事もあるが、とうも昔々日本人……殊に若いものには強も出来ませんね。やつぱり感しさや悲しさが先に立つて、何うかすると、それにみんな持つて行かれてしまうんだからな」

さう言ひながらも彼は感激して感激の為めに舌まで硬ばらせてゐるのだつた。

「え……」

彼女は多く語り勝ちで、にこにこしながら頷いてゐた。彼二は一を聞けるのだつた。

つて行り通したんだからな。まあやつぱり過代人だな」

「さうねえ」

二人はそんな風に他かず語のだつた。が、どうかすると二人ともむつつりとし語つてしまつて十分間も他も言はないことがあつたりして、他から見たら他をしてるゐるんだらうと思はれる。いやに黙かにしてゐることもあつた。二人は遂に感や感激を取り出して、小さなノートの紙片に自分の言はうと思ふことをすん〳〵書いて、互に取り交した。口に言へないことまで、感らも文字になつて現はれた。さうしたマンネリックなしぐさを彼二は心から楽しく思はずにはゐられなかつた。

「……私は、今日は楽しくて堪らないのに、かうして黙つて感見る人のやうに、うつとりとなつてゐたいのよ。いつまでも、いつまでもね……ほんとに、まるで活動のやうだわねえ」

通勤女店員募集

一、高等小學卒業程度
一、市内居住の方
一、年齢十八歳―二十二歳迄の方
一、確實なる保證人を要す

御希望の方は履歴書持参ありたし、詳細面談

平マーケット
平市田町（電話七〇番）

小店員入用

當社ニ於テ小店員ヲ募集シマス
御希望ノ方ハ拙宅ヘ御申出下サイ

一、高等科卒業又ハ中等學校程度ノ方
一、身体強健ノ方

◎俸給其ノ他待遇ニ付テハ御面會ノ上決定致シマス

平市搦搗小路
阿部政右衛門

近眼！
老眼！
亂視眼!!!用
メガネ澤山取揃へて御座います
是非!!一度！
御來店下さい
正確ト勉強ノ店
玉屋メガネ店
平市二丁目

◎此程……開店致しました
何卒御贔屓に願ひます
御料理　一長久
平市田町（元照よし跡）
電話三九九番

吸入用酸素
99%度純
體温計
モノサシ
計量器
マス
ハカリ
寒暖計
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
開内薬局
電話四〇番

◎寫眞材料一式販賣致シマス
電話三一番
平市上橋通
院長　東京齒科醫學士　原精一
原齒科醫院

齒科口腔外科
レントゲン科

高久病院
院長　醫學士　高久忠
副院長　新潟醫學士　赤羽清
藥局長　藥劑師　佐竹菊雄
平市田町　電話五一三番
内科小兒科
外科花柳病科
耳鼻咽喉科
――◎看護婦至急募集――

根本産婦人科醫院
平市南町五二【電話四三番】
（入院隨時）
根本莊次郎
根本貞雄

海へ！山へ！
初夏のハイクに
パーマネント……！
平驛前（電話六七八番）
水野化粧院
水野冬子

お節句飾りの！
値下げと
正札賣に付
謹告

端午の節句が近づきました。皇軍大捷國運旭日の勢を示す此の時、お子様の將來に幸を祈る尚武節句を盛大に行はれる事は誠に意義深い事と存じます。

銃後の護りは健康兒、兒童愛護の精神から…私達同業者相計り五月節句品の奉仕的大値下を斷行いたしました。尚時代に相應じ絶對歸引のない正札賣に改めお客様の安心して御買上願へる様にいたしました。御用命は正札賣りの聯盟店へ仰付けさる様御願ひ申上ます。

平市節句飾販賣業聯盟（イロハ順）
平市三丁目　叶屋　加藤商店
平市四丁目　鱗與　支店
平市二丁目　フクタヤ　祝品部
平市三丁目　金太郎玩具店
平市四丁目　菅野屋肥料店
平市四丁目　スガノヤ　提灯店

平市田町
市原醫院
電話一一四番
市原卯太郎
（毎日午後二時ヨリ九時マデ）
市原陸郎
市原三三男

内科、小兒科、一般外科、内臓外科、皮膚科、婦人科、花柳病

父平三郎儀豫て病氣の處藥石効無く五月二十五日午後五時四十分死去致し候間此段御通知申上候

追て告別式は五月二十七日午後一時自宅に於て佛式により相營み可申候
昭和十三年五月二十五日
福島縣石城郡下小川村上平
嗣子　羽岡千壽